

令和 5 年度石巻魚市場夏漁受入会議資料

令和 5 年カツオ・マグロ類漁海況の
最新情報について

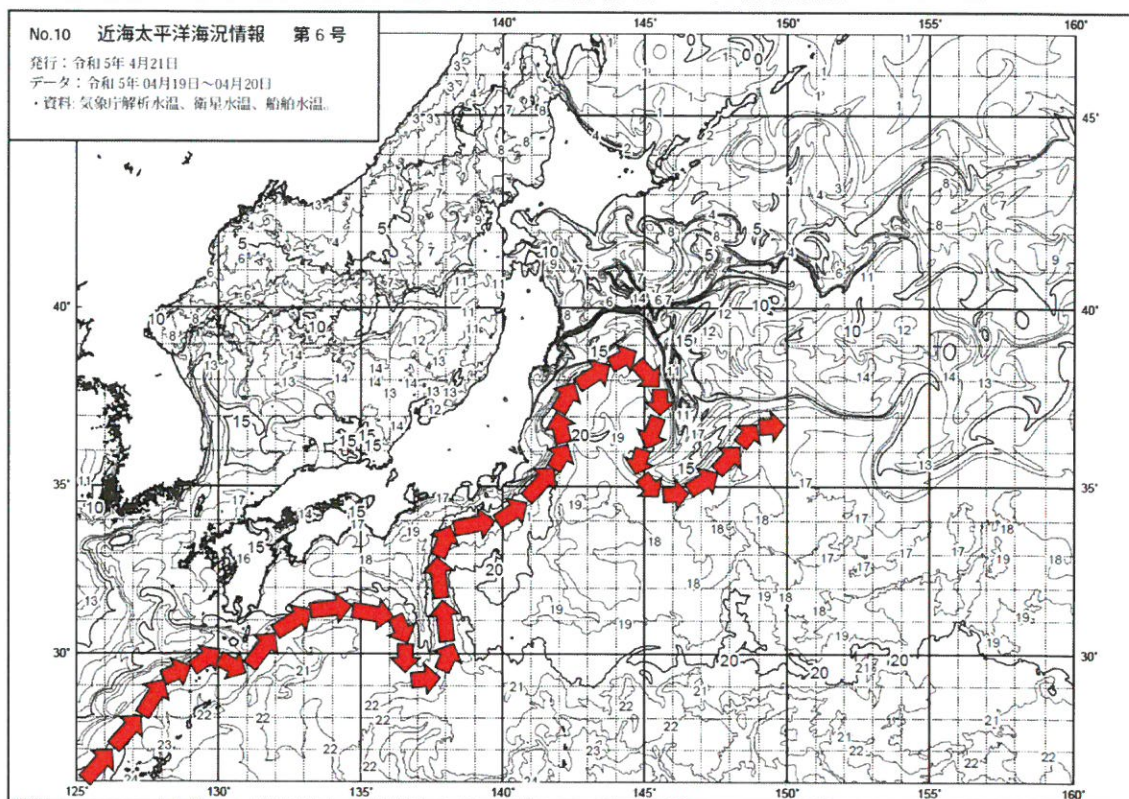
令和 5 年 4 月 2 5 日

一般社団法人 漁業情報サービスセンター

I 海況

・現状

令和 5 年 4 月 21 日発行 近海太平洋海況情報 第 6 号 漁業情報サービスセンター



黒潮域：水温はゆるやかに昇温。23℃以上は九州南東沖に停滞したが、九州～四国～潮岬は 22℃、伊豆諸島西沖～伊豆諸島北部～房総半島沖は 20～21℃に昇温。黒潮流軸は都井岬では離岸し、四国～潮岬沖の 30～31° N を東進。大王埼南沖の 29～30° N で狭い J 字型に蛇行して御前崎沖で緩やかに屈曲し、伊豆諸島北部では三宅島～御蔵付近を通過。房総半島にはやや離岸して常磐では接岸しながら北上して仙台湾沖まで北上。黒潮内側域では熊野灘沖や九州東岸～土佐湾で暖水波及がみられた（黒潮流路は海上保安庁）。

黒潮大蛇行によるカツオ漁への影響

・遠州灘～熊野灘で好漁、外房で不漁

カツオが外房へ到達する前に、黒潮内側反流や黒潮から切離した小暖水渦によって伊豆諸島方面から遠州灘～熊野灘方面へ来遊する。

久野正博 2020：熊野灘の浮魚礁におけるカツオ漁況と海況、黒潮の資源海洋研究 21,37-62

・潮岬沖における曳き縄の不漁

大蛇行による黒潮離岸に伴って例年なら黒潮の縁辺部に形成される漁場が岸から遠のき、漁業者が出漁を見合わせる。

小林慧一、2019：和歌山県潮岬周辺の海況の変化およびカツオひき縄漁業への影響、黒潮の資源海洋研究 20,17-13

・予測

2023年6月20日までの黒潮「長期」予測 (2023年4月19日 海洋研究開発機構発表)

黒潮大蛇行が始まって5年目9か月目になり、過去最長期間になっています。大蛇行から渦がちぎれる可能性があります。

黒潮は大蛇行状態が続いています(図1, C)。2017年8月に始まった黒潮大蛇行は期間が今月で5年9か月目になっており、観測史上最長になっています。

渦が大きくちぎれる予測になっています(図2)。まだ先の予測なので実際に渦がちぎれるか、ちぎれてもどれくらいの規模か様子を見る必要があります。予測どおりになっても、渦は再び黒潮にくっつきそうな予測です(図3)。2020年や2022年は、渦はちぎれて蛇行が弱くなる時期がありましたが、再び渦にくっつき、蛇行が再び強くなりました。

八丈島(●)の北を通過する黒潮流路(B)が続く見込みです(図1～3)。

四国・足摺岬に(C)に接岸する予測になっています(図3)。九州南東では黒潮が離れる流路になると予測しています(図2～3)。

<https://www.jamstec.go.jp/aplinfo/kowatch/?p=12436>

※ JAFIC 東北出張所追記

黒潮続流：房総半島にはやや離岸して常磐では接岸しながら北上して仙台湾沖まで北上。

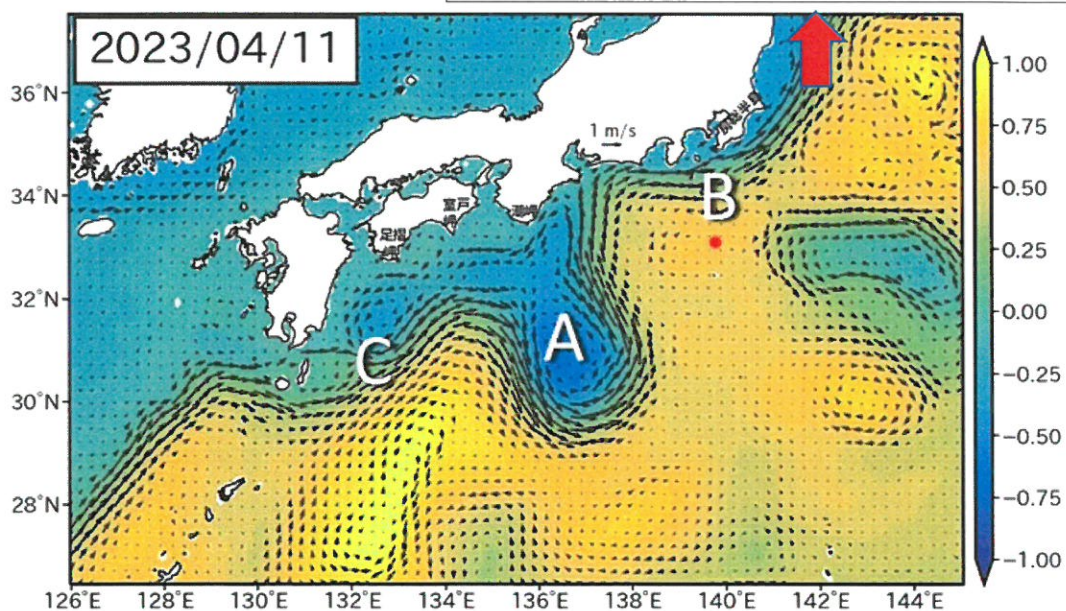


図1: 2023年4月11日の推測値。矢印(ベクトル)は海面近くの流れの向き(メートル毎秒, 長いほど速い流れ)、色は海面水位(メートル, 相対値)。赤丸(●)が八丈島の位置。海面高度が低いところは海面水温が低いおおまかな関係があります。

※ JAFIC 東北出張所追記

黒潮続流：房総半島にはやや離岸して犬吠
埼沖から北東に進み、日立・鹿島沖で北上。

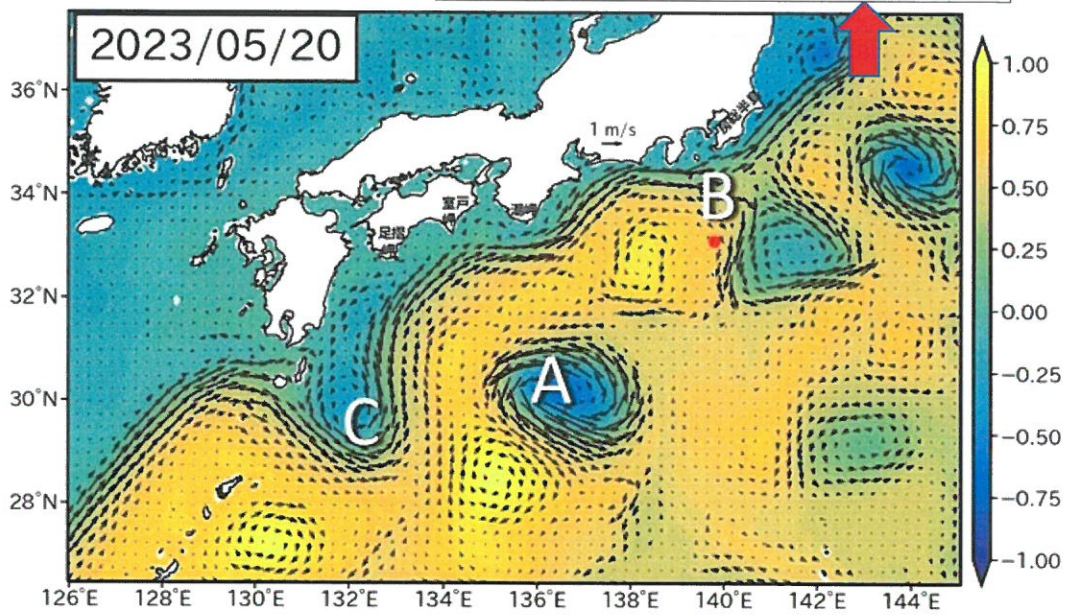


図 2： 図 1 に同じ。ただし 2023 年月 5 月 20 日の予測値。

※ JAFIC 東北出張所追記

黒潮続流：房総半島にはやや離岸して、犬吠
埼沖から北東～東に流去。

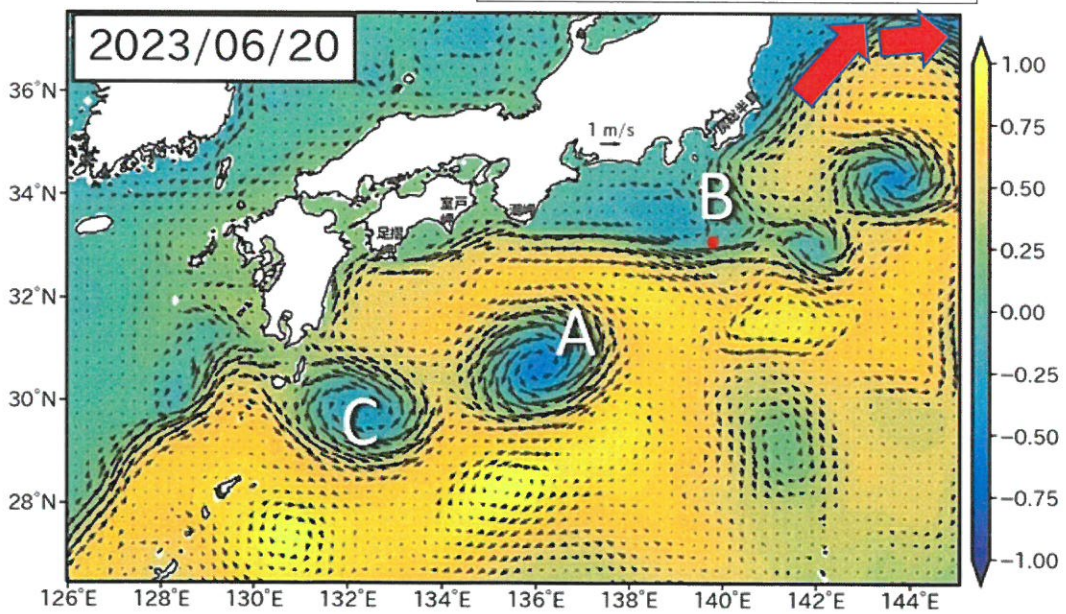


図 3： 図 1 に同じ。ただし 2023 年 6 月 20 日の予測値

II カツオの資源

・現状

カツオ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	高位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (最近5年間)	161.5万～204.2万トン 最近(2021)年:162.5万トン 平均:177.7万トン(2017～2021年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	17.0万～20.9万トン 最近(2021)年:20.4万トン 平均:19.5万トン(2017～2021年)
管理目標	漁業がないと仮定して推定した現在の資源量の50%とすることが2022年のWCPFC年次会合で合意されている。
資源評価の方法	統合モデル(Multifan-CL)
資源の状態	最近年(2021年)の産卵親魚量は、漁業が無いと仮定した場合の約46%程度である。資源は適度に利用されているが、産卵親魚量は過去最低値付近にあり、漁獲圧は増加傾向にある。
管理措置	2022～2023年のメバチ・キハダ・カツオの保存管理措置；まき網漁業によるEEZ内、公海域FAD禁漁期間がそれぞれ3か月と5か月、公海操業日数制限は先進国に加え、島嶼国がチャーターする船にも適用、FAD数制限を1隻あたり常時350基以下とする。
管理機関・関係機関	WCPFC、SPC
最近の資源評価年	2022年
次の資源評価年	2025年

り、かつ産卵親魚量がMSYレベル(265万トン)を上回ることから、カツオの資源状態は乱獲状態でも過剰漁獲でもないと評価した。ただし、産卵親魚量が2000年代後半から減少傾向である一方で成魚と未成魚の漁獲死亡が継続的に増加していること、さらに近年の減耗率(漁獲がなかったと仮定した産卵親魚量に対する実際の産卵親魚量の割合)が歴史的な低水準であることが留意され、その主な原因は熱帯域のまき網漁業と西部太平洋のその他の漁業による影響が大きいと報告した。

水産庁 水産研究・教育機構 「令和4年度 国際漁業資源の現況 カツオ 中西部太平洋」より抜粋、理解のため一部加筆 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_30_SKJ-WCPO.pdf

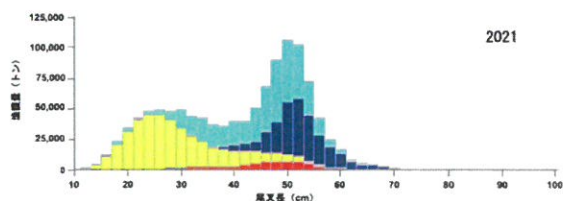


図2. 2021年中西部太平洋におけるカツオの漁法別サイズ別漁獲量 (Williams and Ruaia 2022)
赤：竿釣り、黄：フィリピン・インドネシアの漁業、水色：まき網付き物操業、濃い青：まき網素群れ操業。

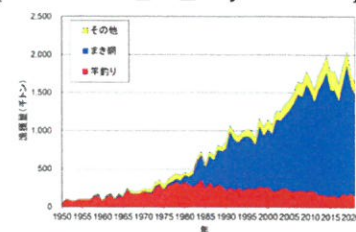


図3. 中西部太平洋におけるカツオの主要漁法別漁獲量の推移 (1950～2021年、WCPFC 2022より集計)

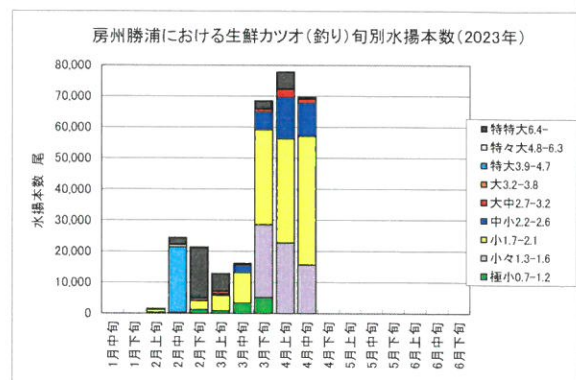
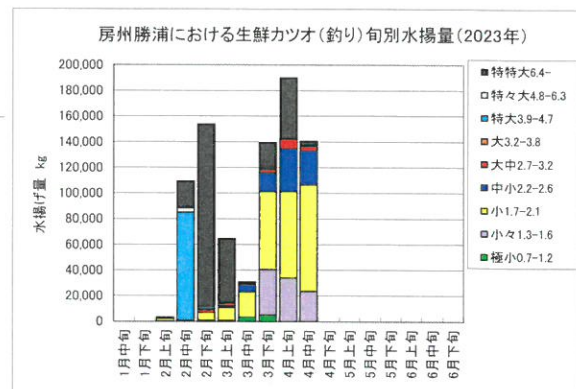
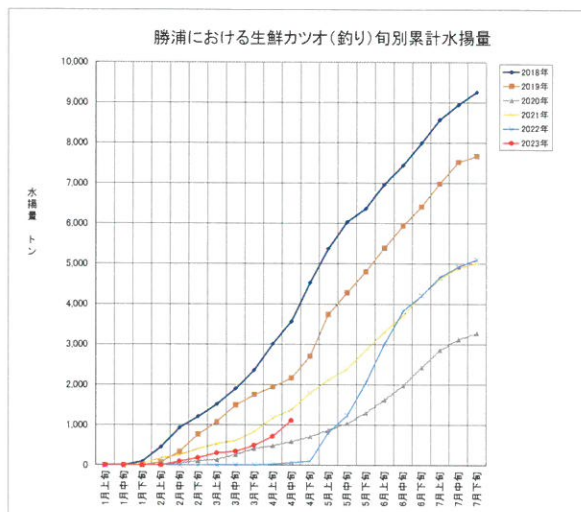
Ⅲ カツオの漁況

・現状

房州勝浦の釣りカツオ水揚げ状況

2月中旬～3月上旬までは6.4kg上の特大が多かった。

3月下旬～4月中旬は1.3kg～2.1kg級の小々、小が加入した（紀伊半島～遠州灘沖の黒潮沿いで漁獲）。



房州勝浦における生鮮カツオ(釣り)旬別水揚げ量

	1月上旬	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬	2月下旬	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	累計
2018年		6	88	362	479	278	307	388	460	651	555	3,574
2019年				72	268	426	312	417	254	195	219	2,165
2020年			8	8	40	52	35	122	148	74	104	591
2021年			37	143	78	147	124	83	227	339	203	1,382
2022年				2	3	2	4	1	0	18	38	68
2023年				6	92	86	120	45	150	221	392	1,112

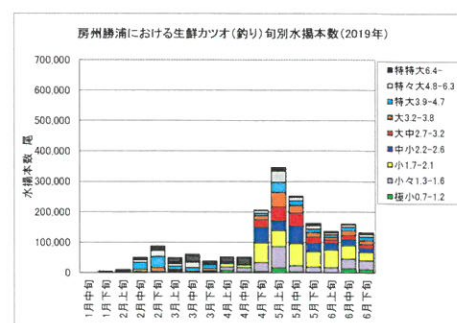
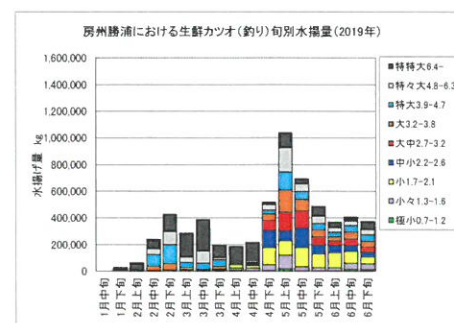
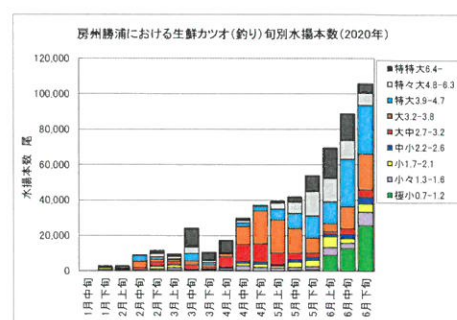
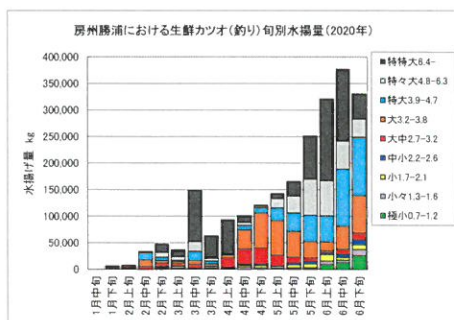
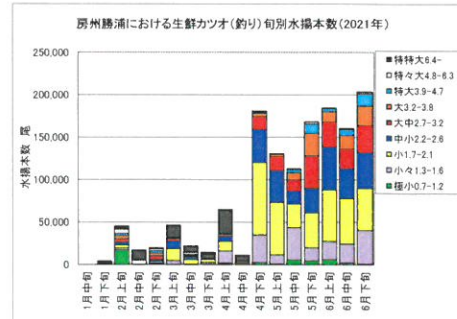
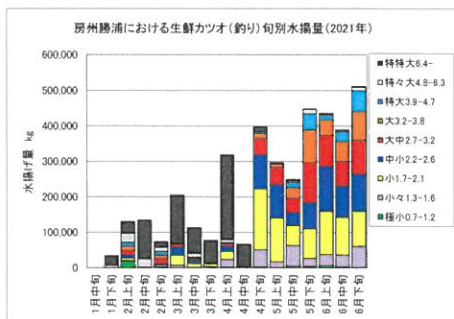
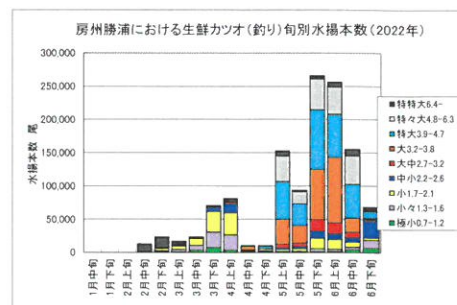
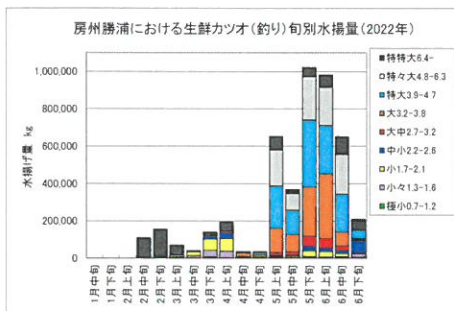
※前年同期比 1,629 %
※5ヶ年平均同期比 71 %

全国の釣りカツオ水揚げ状況

今期は南西諸島でも小々、小サイズがまとまっているようで、鹿児島、宮崎（南郷、大堂津、外浦）の水揚げも好調である。

参考資料

房州勝浦における生鮮カツオ（釣り）旬別サイズ別水揚げ状況（2022～2019 年）



IV カツオの来遊

標識放流の結果から、カツオの日本近海への主要な来遊ルートは、黒潮沿い（右図1）、紀南・伊豆諸島沿い（右図2）、伊豆諸島東沖（右図3）に加えて、三陸沖漁場で沖合から現れる魚群がいることから、天皇海山漁場まで含めた東沖からの来遊ルート（右図4）の4ルートが示唆されている。日本近海へは、主に尾叉長30cm台後半（1歳弱）以降の魚が来遊する。日本近海では、春先3月頃から南西諸島・伊豆諸島周辺に分布し、6月以降から11月にかけて主要漁場である常磐・三陸沖へと北上する。南西諸島の群れは春以降も周辺海域に留まる傾向があることから、北上する主群は伊豆諸島沿いと伊豆諸島東沖のルートで来遊したカツオと考えられる。三陸沖へ北上・来遊したカツオは、9月頃に北緯41度付近まで分布を広げ、その後に南下することが明らかとなっている。電子タグの結果から日本近海へのカツオの来遊には水温18℃の限界生息水温が影響すると考えられ、水平的にも鉛直的にもこの水温によって分布範囲が制限される。

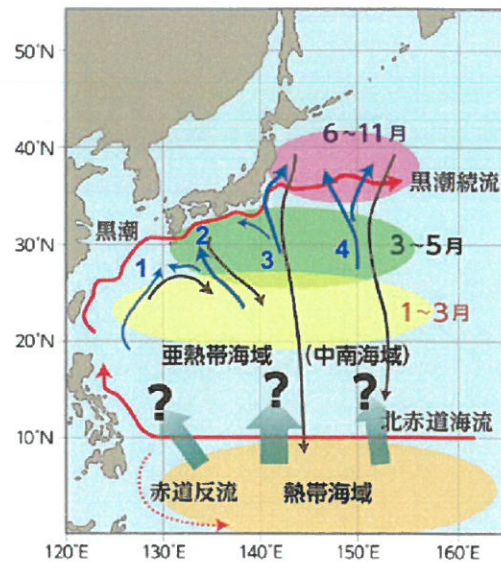


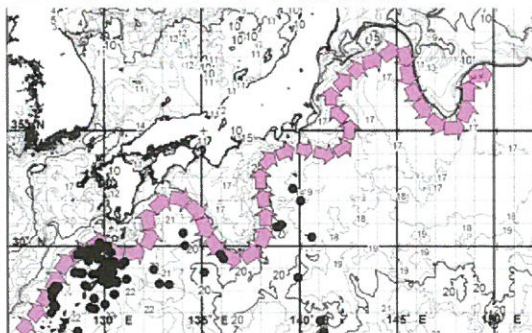
図7. 推定カツオ北上経路と黒潮、黒潮続流、北赤道海流

と伊豆諸島東沖のルートで来遊したカツオと考えられる。三陸沖へ北上・来遊したカツオは、9月頃に北緯41度付近まで分布を広げ、その後に南下することが明らかとなっている。電子タグの結果から日本近海へのカツオの来遊には水温18℃の限界生息水温が影響すると考えられ、水平的にも鉛直的にもこの水温によって分布範囲が制限される。

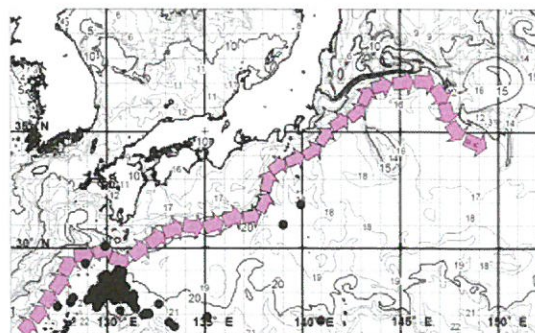
水産庁 水産研究・教育機構 「令和4年度 国際漁業資源の現況 カツオ 中西部太平洋」より抜粋、理解のため一部加筆 https://kokushi.fra.go.jp/R04/R04_30_SKJ-WCPO.pdf

・現状

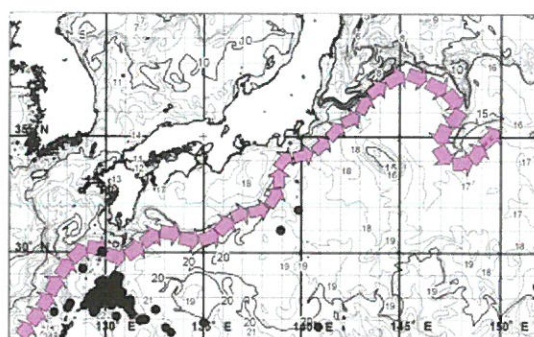
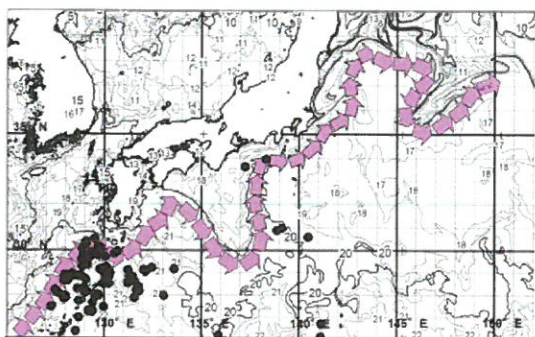
2023年カツオ竿釣漁場



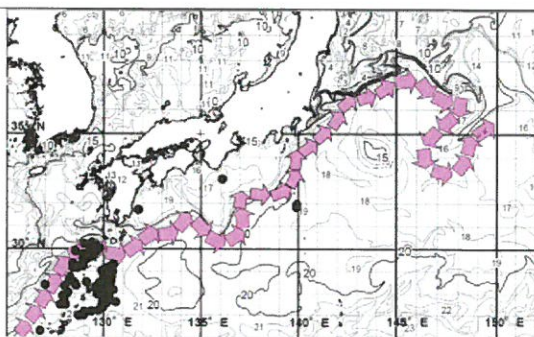
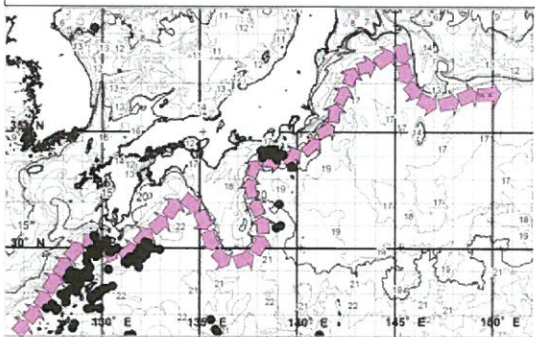
2022年カツオ竿釣漁場



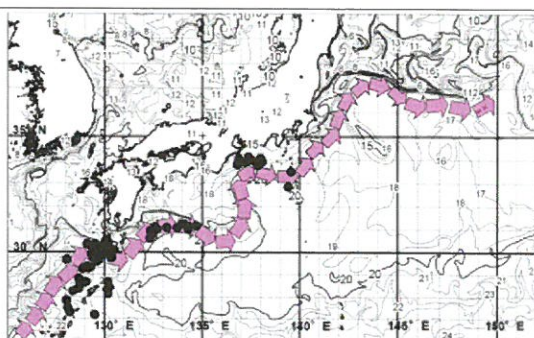
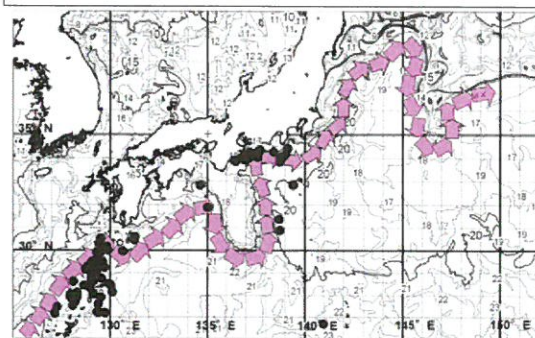
2023年3月上旬の漁況（左図）（）内は前年2022年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）
 南西諸島周辺海域：延120(171)隻操業、漁獲量447(699)t、平均3.7(4.1)t/隻、カツオ極小・小・大・特大主体(カツオ特大・特々大・大主体)
 伊豆諸島周辺海域：延11(4)隻操業、漁獲量20(9)t、平均1.8(2.3)t/隻、キハダ小・シビ仔・カツオ小主体(キハダ小・キメジ・シビ仔主体)



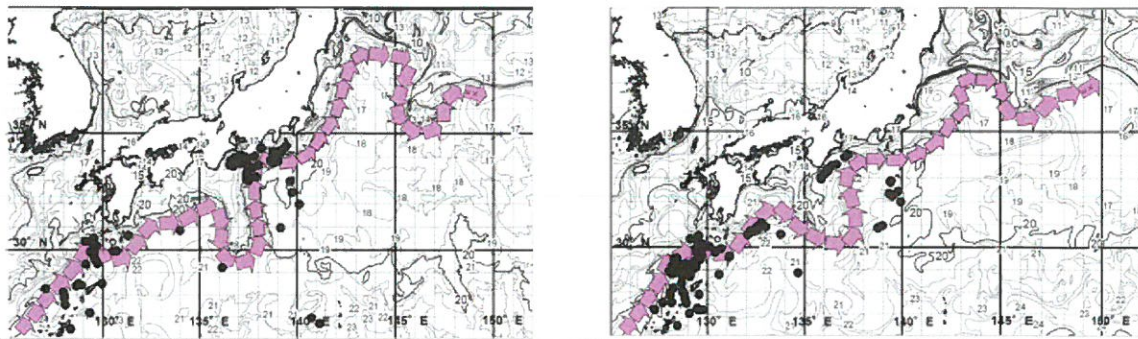
2023 年 3 月中旬の漁況（左図）（）内は前年 2022 年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）
 南西諸島周辺海域：延 104(149)隻操業、漁獲量 301(534)t、平均 2.9(3.6)t/隻、カツオ極小・大・特々大・小主体(カツオ特大・特々大・大主体)
 伊豆諸島周辺海域：延 4(2)隻操業、漁獲量 4(7)t、平均 1(3.5)t/隻、カツオ極小・小・中主体(キハダ小・キメジ・シビ仔主体)



2023 年 3 月下旬の漁況（左図）（）内は前年 2022 年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）
 南西諸島周辺海域：延 138(205)隻操業、漁獲量 481(699)t、平均 2.3(4.1)t/隻、カツオ極小・小・特大・特々大主体(カツオ特大・大・中主体)
 伊豆諸島周辺海域：延 27(4)隻操業、漁獲量 87(12)t、平均 3.2(2.9)t/隻、カツオ小・極小・中主体(キハダ小・キメジ・シビ仔主体)



2023 年 4 月上旬の漁況（左図）（）内は前年 2022 年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）
 南西諸島周辺海域：延 96(135)隻操業、漁獲量 494(454)t、平均 5.1(3.4)t/隻、カツオ極小・小・大・特大主体(カツオ大・中・特大主体)
 伊豆諸島周辺海域：延 29(4)隻操業、漁獲量 119(5)t、平均 4.1(1.3)t/隻、カツオ極小・小・シビ仔主体(カツオ大・特大・中主体)



2023 年 4 月中旬の漁況（左図）（）内は前年 2022 年同期（右図）の数値（黒潮流路は海上保安庁）
 南西諸島周辺海域：延 39(164)隻操業、漁獲量 179(633)t、平均 4.6(3.9)t/隻、カツオ極小・小・中主体
 （カツオ大・特大・中主体）
 日本太平洋中部～伊豆諸島周辺海域：延 81(26)隻操業、漁獲量 527(65)t、平均 6.5(2.5)t/隻、カツオ小・
 極小・中主体（カツオ小・ビンナガ小・カツオ中・ビンナガ中主体）

参考

ニュース JAFIC EYE No.307

3 月の近海カツオ竿釣り漁場と

生鮮カツオの水揚げ状況について

令和 5 年(2023 年)4 月 21 日 JAFIC 水産情報部 水野紫津葉

1. 近海竿釣り船の漁場

3 月の漁場はカツオ極小主体で南西諸島周辺に集中した（図 1a）。近年、春先は南西諸島が主漁場となっているが、この理由は、水揚げ港にも近く、安定した漁獲が見込めるためとみられる。また、本年は小笠原周辺でも隻数は少ないものの漁場が形成され、徐々に北上し、下旬には遠州灘から伊豆半島周辺でもカツオ極小主体の漁獲があった。前年同月は、伊豆・小笠原ルートを北上すると思われるカツオ極小の群れを狙った操業がほとんどなかったが（図 1b）、本年は少ないながらも漁獲があった。このルートを北上するカツオの来遊量が前年よりは多いとみられる。黒潮大蛇行は本年も継続しており、伊豆諸島周辺の黒潮流路が本年は伊豆半島より西を北上したため、カツオの北上ルートが 3 月は 20℃程度まで上昇した（図 2）。このため、カツオが伊豆半島周辺まで北上しやすい海洋環境だったとみられる。

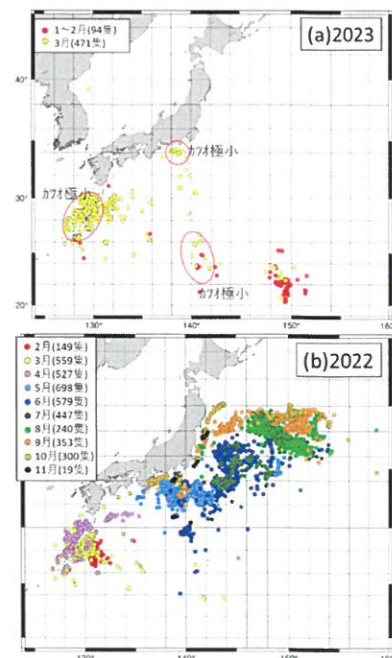


図 1. (a)2023 年 1～3 月、(b)2022 年 2～

11 月の近海竿釣り船の漁場（情報収集海域全

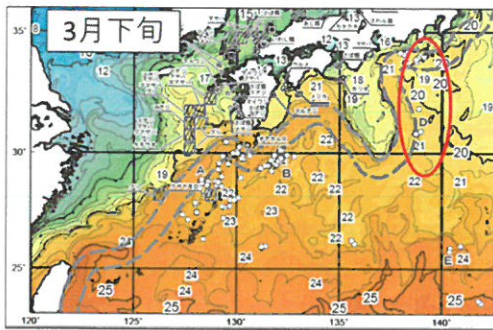


図 2. 2023 年 3 月下旬の海面水温分布と黒潮流路 (JAFIC 発行日本周辺漁況情報、黒潮流路は海上保安庁)

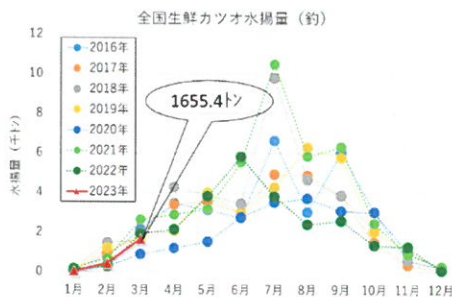


図 3. 2016～2023 年の生鮮カツオ（釣り）の全国月別水揚量の推移

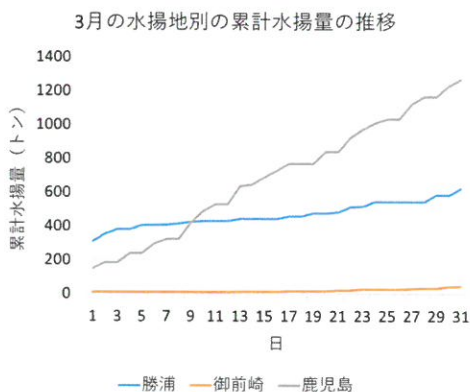


図 4. 2023 年 3 月の生鮮カツオ（釣り）の主要 3 港の日別累計水揚量（1 月から）の推移

2. 水揚量と価格

3 月の全国の釣りによる生鮮カツオ水揚量は 1,655.4 トンで（図 3）、前年同月比 86%、過去 5 年平均比 95%だった。1 月から 3 月末までの累積水揚量は、3 月上旬は千葉県勝浦港が最も多かったが、鹿児島港への水揚げが継続したことから、3 月中旬頃から鹿児島港が最多となった（図 4）。1～3 月の累計水揚量は鹿児島港が 1,267.4 トン、千葉県勝浦港が 624.6 トン、御前崎港が 44.3 トンだった。全国平均価格は 420 円/kg となり、前月をやや下回ったが、前年・過去 5 年平均を上回った（図 5）。まき網による 3 月の水揚量は竿釣りより少ないが、長崎県松浦港に 27 トンで、前年・過去 5 年平均を大幅に上回り、価格は 436 円/kg だった。

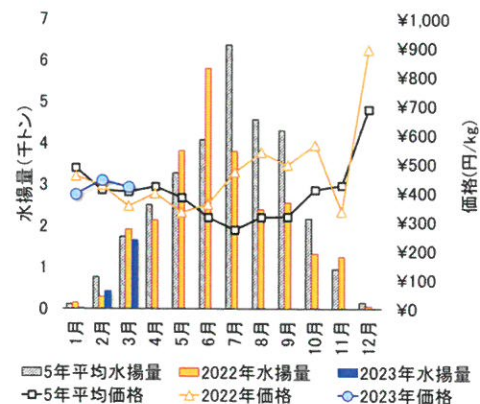


図 5. 2023 年、2022 年および過去 5 年平均における生鮮カツオ（釣り）の全国月別水揚量と価格の推移

3. 今後の見通し

近年、4 月までは南西諸島周辺に漁場が集中する傾向があるが、5 月以降は四国～千葉の沿岸・沖合に漁場が移動する。本年は伊豆諸島南部の海面水温が前年より高いため、伊豆・小笠原ルートのカツオが北上しやすい海況にある。今後 6 月にかけて伊豆～房総周辺で漁場が形成される見込みだ。

V カツオまとめ

- ・ 黒潮は大蛇行から渦がちぎれる可能性がある（海洋研究開発機構）。
- ・ 2023 年 4 月中旬現在までは、南西諸島でも小々、小サイズがまとまっており、鹿児島、宮崎（南郷、大堂津、外浦）の水揚げも好調である。
- ・ 房州勝浦においても、4 月中旬現在のカツオ水揚げ量は 1,112 トンで、前年同期の 16 倍、前前年同期の 80%程度になっている。
- ・ 常磐・三陸沖～道東沖に北上するカツオ小型銘柄は、昨年比べて多い。
- ・ 天皇海山漁場まで含めた東沖からの来遊ルートで常磐・三陸沖漁場に来遊する北上群の情報は、現在のところなし。

現在までの情報は限られていることから、今後の JAFIC 漁海況情報（日本周辺漁海況情報、東北海域漁海況情報）や、国立研究開発法人水産研究・教育機構が 6 月～7 月に公表予定の「令和 5 年度常磐・三陸沖カツオ長期来遊資源動向予測」を参考にして下さい。

VI ビンナガの現況と予測

冬・春期のはえ縄漁からみた 2023 年夏・秋季の竿釣ビンナガ漁

本田 修（漁業情報サービスセンター常務理事）

まとめ

本年夏・秋季における東北海域での竿釣りによる 4 歳魚
※
漁獲量は、2023 年 1～3 月の本州南部海域のはえ縄によ
るビンナガの 3 歳魚※（6～10 kg）釣獲率（釣針 100 本
当たりの漁獲尾数）から判断して昨年・近年（5 年間）
の水準を大きく上回ることが予測された。

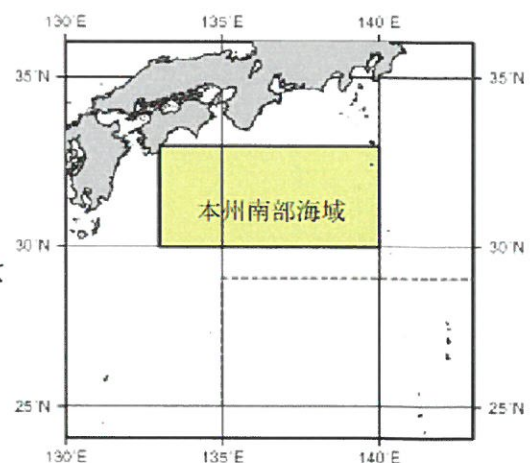
※便宜上、ビンナガは 6 月に年齢が上がります。

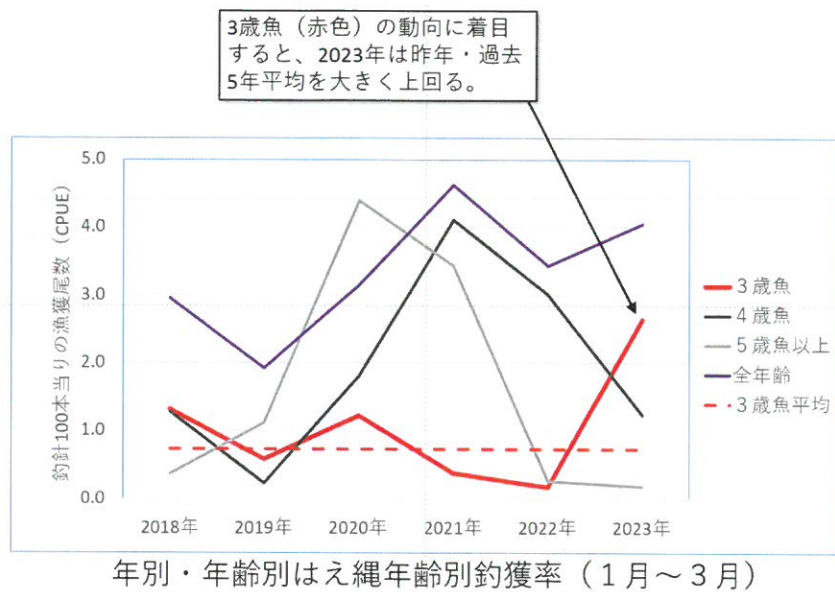
【予測の考え方】

延縄により本州南部海域（右図）
で 1～3 月に漁獲された 3 歳魚が、
夏・秋季に 4 歳魚になって東北海
域で竿釣りにより主体的に漁獲さ
れる。

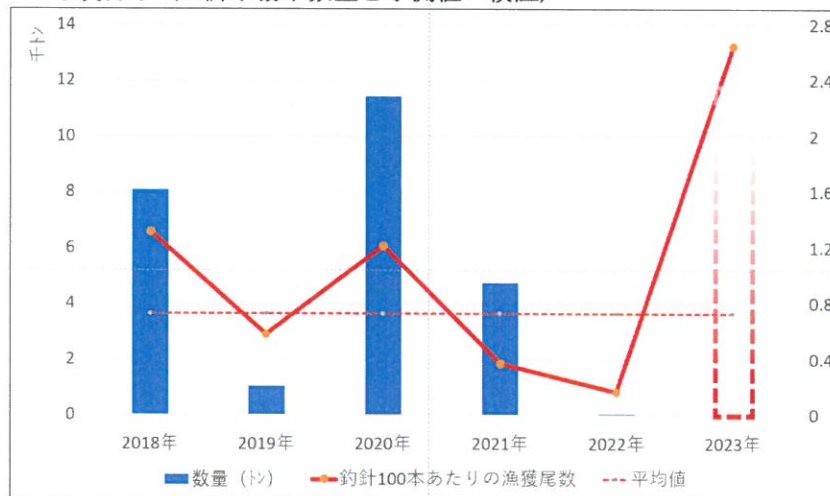
【使用したデータ】

- ・紀伊勝浦魚市場におけるはえ縄船の相場表
漁獲日、漁獲場所、操業回数、漁獲量、使用釣数





○裏付け（生鮮水揚げ数量と予測値の検証）



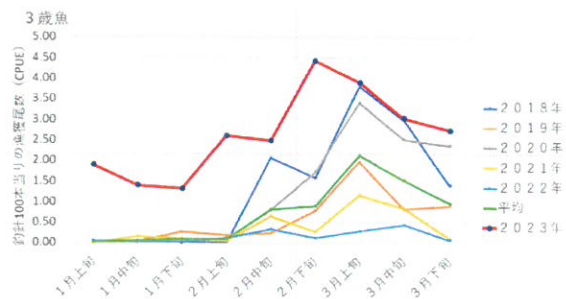
気仙沼における生ピンナガの水揚量と延縄釣針100本当りの漁獲尾数

○これまでの予測の評価

2022年：昨年（2021）を下回り（○）、近年（5年間平均）の水準を下回る（○）。
 2021年：昨年（2020）を下回り（○）、近年（5年間平均）の水準を下回る（△）。
 2020年：昨年（2019）を上回る（○）ものの、近年（5年間平均）の水準を下回る（×）。
 2019年：昨年（2018）を下回り（○）、近年（5年間平均）の水準を下回る（○）。
 2018年：昨年（2017）を下回り（△）が、2016年をやや上回る（○）。

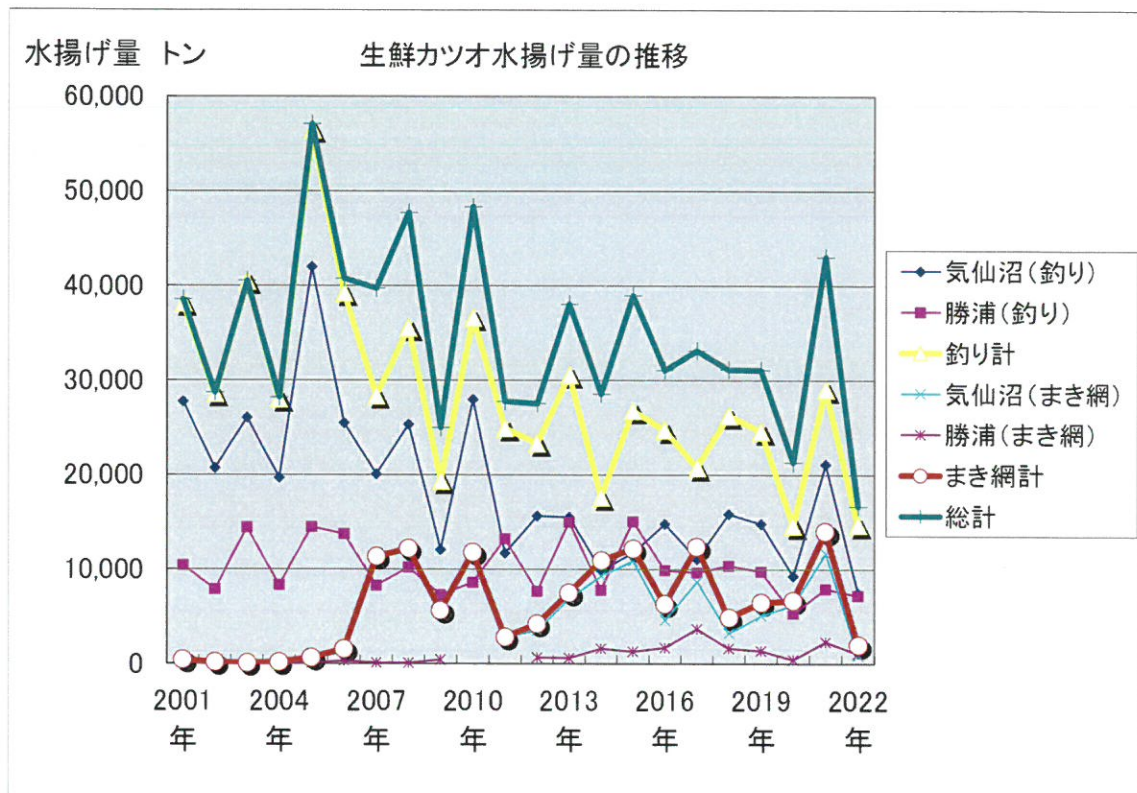
【参考】

旬別・年別・3歳魚はえ縄年齢別釣獲率（2023年1～3月）

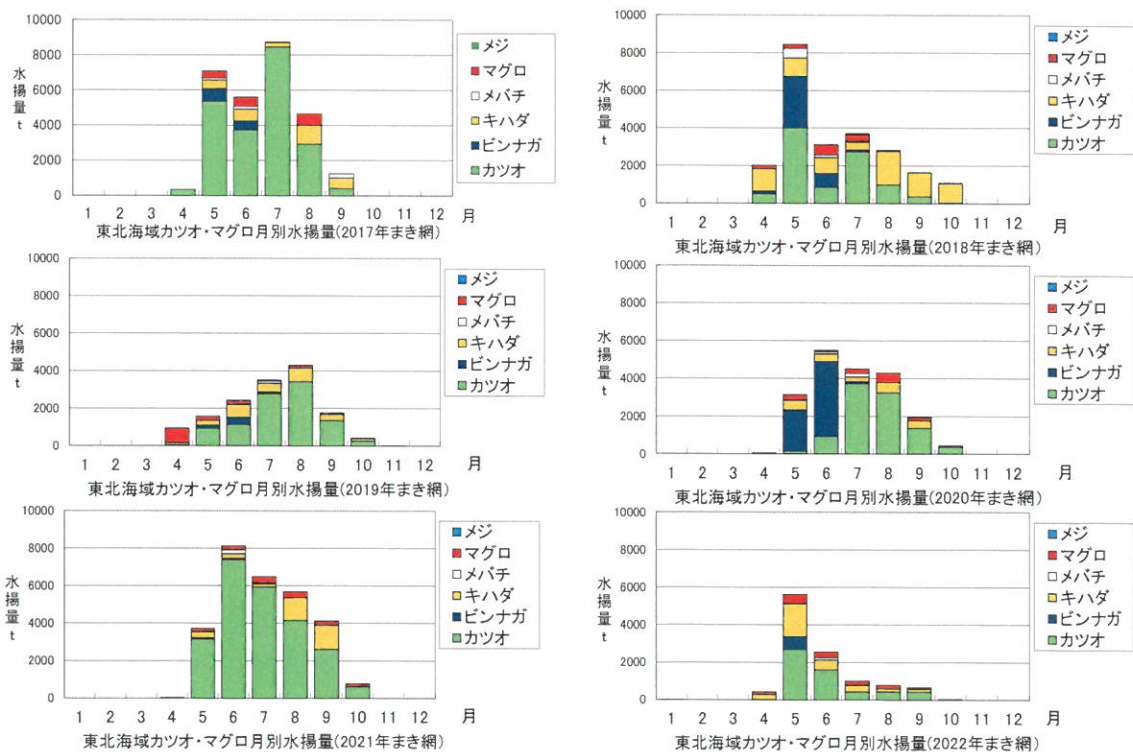


2023年の3歳魚の年齢別釣獲率（赤色）は、過去5年間で最も高水準で推移していた。

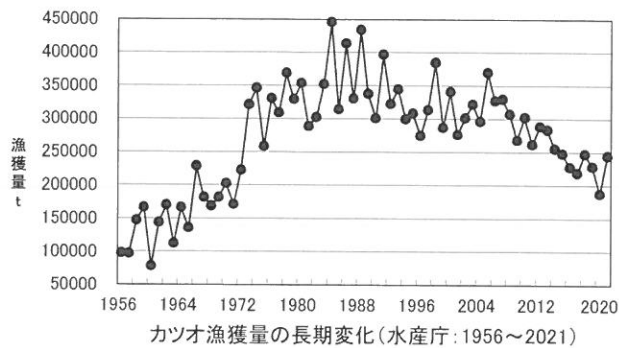
VII カツオ・マグロ類の漁獲統計



まき網による東北海域カツオ・マグロ月別魚種別水揚げ量 (2017～2022 年)



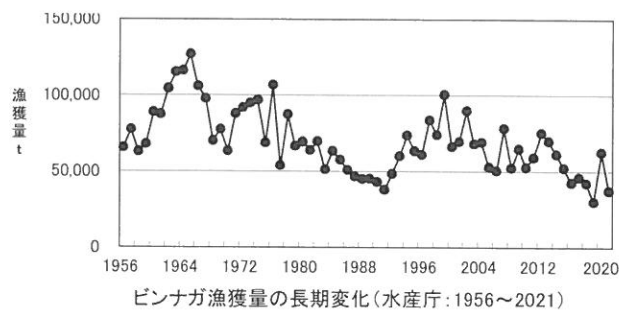
カツオ・マグロ類全国水揚げ量の長期変化（1956～2021 年）と資源評価（水産庁）



2022 年カツオ（中西部太平洋）資源
の評価結果

資源水準：高位、資源動向：減少

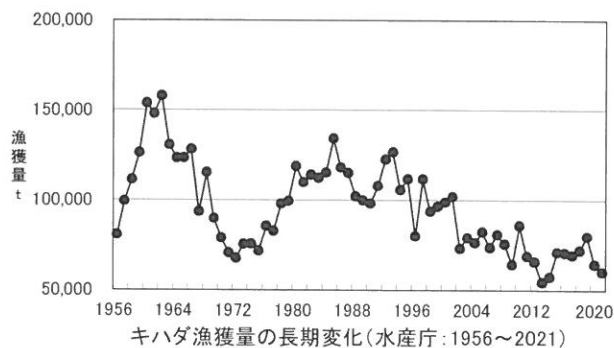
※次回資源評価年：2025 年



2020 年ビンナガ（北太平洋）資源の
評価結果

資源水準：中位、資源動向：横ばい

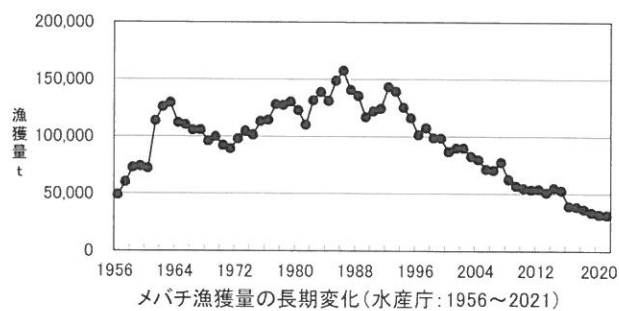
※次回資源評価年：2023 年



2020 年キハダ（中西部太平洋）資源
の評価結果

資源水準：中位、資源動向：減少

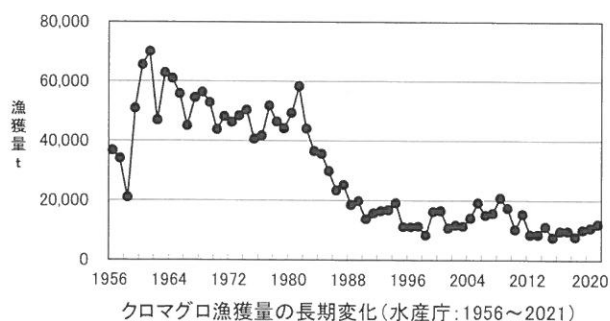
※次回資源評価年：2023 年



2020 年メバチ（中西部太平洋）資源
の評価結果

資源水準：中位、資源動向：横ばい

※次回資源評価年：2023 年



2022 年クロマグロ（太平洋）資源の
評価結果

資源水準：中位、資源動向：増加

※次回資源評価年：2024 年

夏漁鰹鮪漁業の取扱いについて

1、鰹鮪1日の受入数量並びに販売について

(1) 受入(販売)数量

- ① カツオ・ビン長(マグロ・メジ)1日の受入(販売)数量は、関係各位と協議の上決定する。

(2) 販売時間

イ) 1回目の販売時間は、午前7時30分～8時頃を目安とし、販売前に予め場内放送にて告知する。

ロ) 2回目以降については、水揚状況によりその都度、販売する。

(3) 販売順位

- ① 販売順位は、受付登録船の入港順位とする。

2、受付登録

- ① 他港との二股登録は認めない。

- ② 受付登録は、1日の受入(販売)数量に達した場合、その時点で受付を締切り、それ以降の登録受付分については、翌日まわしとする。

(但し、状況・場面に応じて、受入販売の目安数量を超過することもあり得ます。)

3、水揚船

- ① 水揚作業については、原則として入港順に行うものとする。

但し、数量の少ない船(4～5 トン位)で自分の所で水揚作業ができて、
販売は原則として入港順番に従ってもらう。(但し、先入港船の了解を求め
て水揚をすること。)

4、マグロのエア抜きと配列

- ① エア抜きは、原則として丸 20 k g 以上とする。

- ② 配列一山の本数・目廻りについては、

- ・ 40 k g 以上のものは、10 k g 刻み
- ・ 40 k g 以下のものは、5 k g 刻みとし、

配列は状況に応じて本数を定める。但し、大型マグロについては1本～
10本以内をもって配列するものとする

5、その他

- ① 上記に記載あるものの他、カツオ・マグロ類の水揚げ販売等に関して問題が
生じた場合は、その都度買受人・問屋・市場等の関係者が協議の上、取り
決めるものとする。

以上

まき網・一本釣魚種選別段階（生鮮）					
[本マグロ]		[小マグロ]		[メジ]	[キメジ]
ヌキ 100 kg 以上		ヌキ 35 kg 以上		丸 15 kg 上	丸 15 kg 上
〃 90 〃		〃 30 〃		〃 10 〃	〃 10 〃
〃 80 〃		〃 25 〃		〃 7 〃	〃 7 〃
〃 70 〃		〃 20 〃		〃 4 〃	〃 4 〃
〃 60 〃				〃 4 kg 下	〃 4 kg 下
〃 50 〃					
〃 40 〃					
・配列 100 kg 上以上は 1 列 1 本～10 本山 40kg 上から 90kg 上は、1 列 10 本～30 本 10kg 上から 35 kg 上は、1 列 30 本～50 本				注) 1) 40kg 以上は 10kg 刻み 2) 「丸」は 20kg 以上を抜く	
[ビン長]		[平政]		[シイラ]	[カツオ]
10 kg 上		特大－10kg 上		大－ 7 kg 上	特大 － 4.0 kg 上
7 〃		大－ 7 〃		中－ 5 〃	大 － 3.0 〃
4 〃		中－ 5 〃		小－ 3 〃	中 － 2.5 〃
4 kg 下		小－ 3 〃		少々－ 3kg 下	中小 － 1.8 〃
(キズ) － 4 kg 上		少々－ 2 〃			小 － 1.5 〃
〃 － 4 kg 下		ビン－ 2 kg 下			ピン大－ 1.0 〃
〃 －大キズ					ピン小－ 1.0 kg 下
魚 種 別 選 別 段 階 （ 冷 凍 ）					
遠洋カツオマグロー一本釣船 [ブラインB1、B 同様]			海外まき網船 [ブラインPS、B 同様]		
[カツオ]		[ビン長]	[カツオ]	[キハダ]	[ダルマ]
7 kg 上		10 kg 上	7 kg 上	10 kg 上	10 kg 上
4.5 〃		7 〃	4.5 〃	2.5 〃	2.5 〃
2.5 〃		4 〃	2.5 〃	1.5 〃	1.5 〃
1.5 〃		4 kg 下	1.8 〃	1.5 kg 下	1.5 kg 下
1.5 kg 下			1.8 kg 下		

* 魚市場の秩序保持について

《 順 守 事 項 》

◎ 市場利用者 各位

- 1、ゴミの持ち込み又はタバコの吸殻・空き缶・紙コップ等のゴミのポイ捨てをしてはならない。
- 2、市場構内は、徐行運転（時速10km以下）すること。
- 3、次の喫煙ルールを守ること。
 - イ、喫煙所（水揚棟内7ヶ所に設置）においてのみ、喫煙できます。
 - ロ、作業中や構内歩行中のくわえタバコは、止めて下さい。

◎ 買受人 各位

- 1、売買参加の際は、必ずプレートを制帽正面に着用して下さい。
- 2、スカイトンクの取扱いについて
 - イ）スカイトンクの回収時間は、貸出日当日の午後4時までと致します。
 - ロ）スカイトンクの破損及び回収不能については、買受人との協議の上、負担を決定します。
 - ハ）スカイトンクの返却の際は、良く洗浄し、キャップの閉め忘れのないようお願いします。
 - ニ）スカイトンクの底減り防止の為、床に接地する引きずり走行を止めて下さい。

◎ トラック運転従事者 各位

鳥類危害・異物混入及び荷こぼし・タレ流し等を防止する為、積荷後速やかにシートで荷台を覆ってから搬出して下さい。

◎ リフト運転従事者 各位

- 1、タンク・油圧ホースの点検に努め、油もれを起こさないようにして下さい。
- 2、構内作業時は、ライトの点灯を心掛けて下さい。
- 3、スカイトンク搬出・返却の際は、2段重ねまでとします。
- 4、構内での運転に際しては、必ず運転技能講習修了証を携帯して下さい。
- 5、場内外を移動する小型特殊リフトは、公道走行許可を取って下さい。

◎『金華かつお』のブランド基準

宮城県 石巻港 石巻魚市場 TEL 0225-23-8121 石巻市漁船誘致及び原魚等確保推進委員会
令和2年6月から一部改訂し、適用開始

No.	項 目	基 準
1	水揚地	石巻魚市場
2	漁獲海域	北部太平洋海区
3	漁 法	まき網、一本釣り
4	品 質	生鮮物:新物として水揚・販売されたもので、かつ買受人が 上級品と判断した物。 冷凍物:まき網ではPS製品、一本釣りではB1 製品
5	魚体重	1尾 1.8kg 以上のもの[中小 1.8～2.5 kg、中 2.5～3 kg、大3～4 kg、 特大 4～6 kg、特特大6kg以上]
6	仕 向	生鮮物:丸(原魚)出荷又は刺身用の「さく」として出荷 冷凍物:スキンレスロイン、たたき等の加工品
7	期 間	暦年におけるカツオの初水揚げ日から最終水揚げ日まで
8	認証シール (通しNo.付) の取扱方法	『金華かつお』の生鮮・冷凍ものの共通の認証シールとする。 原則として、金華かつおの丸出荷用発泡スチロール内に1枚を貼付、若しくは生・冷刺身の柵等のパックや袋の表面に1枚のシールを貼付する。 買受人は『金華かつお』の出荷先(量販店・小売鮮魚商・荷受・飲食関係業務筋)と認証シールの適正な取扱について相互確認の上、出荷先に認証シールを渡すものとする。
9	認証シールの配布	石巻魚市場登録買受人の要請に応じ、当分の間、無償にて配布する。
10	認証違反	『金華かつお』のブランド基準に満たないカツオを出荷し、出荷先や消費者等からのクレーム通報が当委員会に対してなされた場合、認証違反があったものと認める。 同一買受人のクレームが1漁期中2度発生した時は、当該買受人に配布したシールを没収し、以後シールの配布を行わないものとする。 尚、買受人はクレーム処理及び原因究明等一切の責任と当委員会に対する速やかな報告の義務を負うものとする。

